
日本イシガメの偽装産卵

宇陀章

A report on the behavior of Japanese pond turtle.

By Akira UDA

子供を失った母親の悲しみを周囲の者が慰める姿を見かけるが、イシガメにもこの様な人間感情に似た思いがあるようである。今回は本職が確認した3回目の具体的な状況について、観察したままを具体的に紹介したい。

産卵地掘返しで雛の死を確認した母親がそれから5日後の早期に生活圏から出て来る姿を発見した。本職は孵化不能を確認した母親が繁殖地に乗り入れることがないことを知っていたので注目していると、移動の途中で足踊りをし始めた。妻の呼び出しに応じた夫が物陰から出て来て、営巣予定地に誘導した後は近くで立ち会った。妻は小一時間かけて巣穴を掘る途中で首振り行動をし始めたので間もなく産卵すると注目していたが、産卵が全くなかったことを確認した。母親は小一時間かけて埋め立て作業を済ませて立ち去った。通常、立ち会っていた夫は産卵直後から産卵地の防護警戒に従事する状態が観察できるのに、夫は見向きもしないで生活圏の方へ引き上げてしまった。その後の張り込み観察でも夫婦共に姿を見せることはなかった。この状態は前回までの観察結果と変わりがなく、母親は年一回きりの産卵が孵化不能に終わったことを悲しんで偽装産卵によって自らを慰めて居る自慰行為であり、夫も妻の自慰行為に協力している思いを強くするのであった。

この偽装産卵はイシガメ夫婦全部がするものではなく、また同一夫婦が偽装産卵を見せたこともなく滅多に観察できない貴重な行動であった。